

風土記の丘の花だより²⁵¹

今、そしてこれから見られる植物(2024年9月7日)

気をもんだ台風10号でしたが、ほどよいお湿りを与えてくれた程度で大きな被害はありませんでした。でも東海、関東、東北あたりでは甚大な被害が出ています。お見舞い申し上げます。

まだ、暑い日が続いていますが、吹く風に秋を感じる瞬間があります。



センニンソウの白い花が満開になってきました。漢字で書くと「仙人草」、花の後にたくさんの毛が生えた種子ができるので、それを仙人のヒゲに例えた名前だそうです。園芸品種でいうとクレマチスと同じ仲間で、キンポウゲ科の植物です。植木やフェンスに絡みついて、困った草にも思えますが、取り除くのなら、今しばらく待ってやってください。せっかくこんなにきれいな花を咲かせているのですから、鑑賞させてもらいましょう。それから深く刈り込むとまた来年きれいな花を咲かせてくれますよ。



少し前からマルバハギの花が咲いています。ハギは見分けにくいですね。マルバハギの特徴は、花が葉の付け根に固まって咲き、枝から長く飛び出ないことです。そして、ほかのハギでは花の真ん中からにゅーっと突き出ている赤い



矢印の部分(舟弁・しゅうべん)がほとんど突き出ていないことです。比較のためにケハギの花を載せますので、見比べてください。これはにゅーっと出ているでしょ。



名前は同じハギですが、とてもハギには見えないネコハギも咲き始めました。ネコハギは上にのびずに、地面を這うように生えます。「ネコ」は、花が白くて丸いからか、葉をはじめ全体に毛深いからか、いずれかは分かりませんが、牧野図鑑にもハッキリ書かれていません。人の目の高さに咲かないことや、ほかの草にかくれてしまうことなどから、余り知名度のないハギかもしれません。でもかわいい花ですね。これは谷村家の西の斜面で撮りました。



アレチヌスビトハギの花があちらこちらで咲いています。年々増えている外来植物です。「アレチ」という名前は、外来植物によく付けられますが、それは、在来植物が生えられないような荒地にでも適応して生えることによります。秋が深まると、たくさんのひっつき虫ができ、人の衣服に付着します。人がそれを取って、その辺にポイすることで、分布を急速に広めていったのです。植物の生きる知恵でしょうが、私たちにとっては厄介なことですね。 松下